

会議名称	企画・戦略委員会第 25 回白書分科会および各作業班（ビジョン、技術、周波数）合同会合
日時	2023 年 10 月 24 日(火) 15:00-16:10
場所	WEB 開催（Webex）
参加者	【白書分科会】 中村主査（NTT ドコモ） 技術作業班：作本リーダー（富士通）、下西副リーダー（大阪大学） 周波数作業班：本多リーダー（エリクソンジャパン） 等 約 60 名 総務省、事務局（NTT データ経営研究所）

（以下、敬称略）

（1）白書分科会の活動全体に係るご報告

- 特になし。

（2）ビジョン作業班報告

- 事務局から、10 月 19 日に開催した WAKUWAKU2030「第 1 回ワークショップ」の開催結果について報告を行った。
- 小西リーダーが欠席のため、事務局から、ビジョン作業班の WAKUWAKU2030「第 1 回ワークショップ」参加結果について代行して報告を行った。
- 主な質疑は以下のとおり。
 - 第 2 回、第 3 回のワークショップはクローズド開催とあるが、分科会からの参加はできないという理解でよいか。（分科会メンバー）
 - 分科会メンバーのうち、白書の執筆者を優先度高く参加いただきたいと考えているところである。（事務局）
 - 将来的には、オープンな場を開催する予定であるか。（分科会メンバー）
 - 各産業の方をお呼びしたオープンな場の開催は、WAKUWAKU2030 のワークショップの枠組みの中では考えていない。ご希望があれば、パネリストとして参加の調整は可能である。（事務局）
 - 別途、個別に相談するかもしれない。（分科会メンバー）
 - 事務局までご連絡いただきたい。（事務局）
 - 議論を活発化するために、2 回目、3 回目のワークショップはクローズド開催としている。ご要望があれば、人数を勘案した上で、参加いただくことは可能と考えている。（総務省）
 - 第 4 回で取りまとめる「社会実装プロジェクト案」は誰が作成するのか。（中村）
 - 「社会実装プロジェクト案」は、事務局にて作成する予定である。（事務局）
 - 「社会実装プロジェクト案」と白書との関係性はどのようになるのか。（中村）

- インput情報として白書を参照しており、白書に書かれたテーマやケイパビリティを引用する予定である。事務局で「社会実装プロジェクト案のたたき台」を作成し、2回目、3回目のワークショップにおいてディスカッションすることを予定しており、その結果をワークショップの成果として、第4回でご紹介することを予定している。(事務局)
- 白書第3版更新での考慮等を含め活用など含め、別途相談したい。(中村)
- 承知した。(事務局)

(3) 技術作業班報告及びアカデミアとの連携促進

- 作本リーダーから、「技術編別冊作成方針(案)」に関する更新内容について、報告がなされた。
- 主な質疑は以下のとおり。
 - 別冊候補部分「その他」に関連し、NTT アクセスサービスシステム研究所様から提示されている内容と docomo 社から提示している内容には、「重複する部分」と「重複しない部分」があるため、NTT アクセスサービスシステム研究所様からの提示内容についてもまずはフラットに記載いただいた方がよい。提示内容のマージ等が必要になった場合は相談いただきたい。(分科会メンバー)
 - 承知した。(作本)
 - 執筆について、学会の研専運営会議での募集という話もあったが、アカデミアによる執筆についての進捗はどうか。
 - できるだけ広い場で募集をかけていくべく、来週の RISING のパネルセッションの中で募集をかけることとしたい。(下西)
 - RISING にはいくつかの研専が出られると思うので、そのメーリングリストで情報を流すなどすれば、RISING に出席されている方以外にも伝えることができるのではないかと思う。また、世界レベルで研究されている先生など、入れなければならない方については、取りまとめの方からご連絡するようなパスもあったほうが良いのではないかと思う。(分科会メンバー)
 - 検討したいと思う。RISING は多くの研専が協力しているので、各研専委員長に個別に話をして進めたい。また、今後各セッションのリーダーを集めたキックオフを開催したいので、リーダーからお声がけをいただけるようにしたい。(下西)
 - 別冊作成のスケジュールはどのようになっているのか。(中村)
 - これから執筆を開始し、1月末にドラフト完、2月末に作成完を予定している。国際カンファレンスの際に何かしら用意するという話もあったと思うので、それまでにある程度のものできるよう計画をおいている。(作本)

- 学会メンバーに声かける際に、B5G 推進コンソーシアムのメンバーシップを考慮すべきかを確認したい。アカデミアが必ずしも会員であるわけではないと思う。
(分科会メンバー)
 - 別冊に関しては、B5G 推進コンソーシアムのメンバーに執筆いただくことは特段問題ないと考えている。(下西)
 - コンソーシアム会員でない方にも分科会や執筆作業に参画いただいているところがあるので、誰がどのような活動をされているかが明確であれば、特段問題ないと考えている。(事務局)
- 「執筆取りまとめの方との打ち合わせ」と記載があるが、この後、各トピックの取りまとめの方との打ち合わせがあり、その後執筆作業が始まるということか。(分科会メンバー)
 - その進め方を考えている。(作本)

(4) 周波数作業班

- 本多リーダーから、「7 - 15GHz 帯の国内利用状況の調査」等の進捗、「白書別冊（周波数関連）」の目次案について、報告がなされた。また、「7 - 15GHz 帯の国内利用状況の評価方法」について提案がなされ、WRC-23 の前に、評価結果等を出さないことについて、参加者から合意を得た。
- 主な質疑は以下のとおり。
 - 「11.7GHz~14GHz」のうち調査の分担をしていたが、スカパーJSAT 様が全てやっていたので分担を確認したい。(分科会メンバー)
 - 作業が重複してしまっているので、後ほど議論したい。(本多)
 - 後ほど調整させていただきたい。(分科会メンバー)
 - 大きな問題はなかったが、個別に連絡している点は確認したい。(分科会メンバー)
 - 承知した。(本多リーダー)
 - 一部出典不明箇所があったので、別途相談したい。(分科会メンバー)
 - 承知した。(本多リーダー)
 - 評価をするに当たって時間がないので、特定の帯域を取り上げる可能性があるということであったが、時間軸の想定を伺いたい。(分科会メンバー)
 - 白書全体は、3月までにリリースすることとなろうかと思う。周波数を分冊化しようとする、1月末にドラフト完、2月末に作成完了を想定している。
(本多)
 - その場合、白書には「評価」についても載せていくのか。また、移動業務への割当有無についても記載していくイメージであるか。評価の基準もこれから議論するのか伺いたい。(分科会メンバー)

- 「どういう点について、帯域の情報を載せるか」ということで、「移動業務への割当の有無」は決まっているので、載せることは難しくないと考えている。また、「連続した広帯域の可能性」は、取り上げる帯域が決まれば、広いか狭いかはすぐにわかる。何をもってして広帯域かということを議論すれば何かしらいえると思う。(本多)
- 最後の評価が一番難しいところになるということか。(分科会メンバー)
- 作業班の中で、情報追加の意見があれば、議論をしていきたい。(本多)
- 方向性としては賛成である。前回と同じように、何らかの「デジタル」をした方がいいのではないかと思う。前は共存可能性も評価した。個人的な主観にならないように、前回の1～5段階の評価があった方がいいのではないか。(分科会メンバー)
 - 5GMFの場合は、評価基準は1～4段階で評価をしていた。白書分科会でも同じ評価をしようとする、同じ1～4段階の評価でいいのかが疑問であり、その場合、一から作りなおさなければならず、議論が沸騰することを危惧している。(本多)
- WRC-23の前に中間結果を出すということか。(分科会メンバー)
 - WRC-23の前に何らかの結果を出すことは間に合わず、出さないことを想定している。現在、7-15GHz帯の利用状況を調査いただいている状況であるが、全ての帯域を1～4段階で評価をすることはせず、WRC-23の新議題として帯域が示された場合、白書分科会としてもその示された帯域に集中して評価ポイントとして白書を書いたらどうかと考えている。(本多)
- WRC-23の新議題の検討状況をフォローしている状況であるが、白書分科会において、現段階で「この周波数で行く」ということは実効上時間もなく、タイミング的にも適切ではないという理解である。WRCに向けては、7-24GHzについての部分が検討候補になり得るかを総務省にて調整中という認識であり、日本としてどこであれば検討可能なのか、という情報と、WRCの結果を見た上で意見を作った方が合理的であると考えている。(分科会メンバー)
- WRC-23の前に中間結果を出さないという方向性でご説明したが、その方向性でよろしいか。(本多)
 - 意見なし。

(5) その他、事務連絡等(事務局)

- 事務局から、今後の会合予定について、説明を行った。
- 周波数作業班は、先の討議でWRC-23の結果を踏まえて検討することとなったため、周波数作業班の次回会合は12月の開催として、各作業についてはメールベースでやり取りすることとしたい。(本多リーダー)
- 白書分科会閉会后、引き続いて周波数作業班アドホック会議を実施した。

以上